

仮想アースの検討(6)(HP 収載)  
ーコンデンサーと抵抗の活用(6)ー

1. 始めに

前報(5)において使用した電解コンデンサーに抵抗を組み合わせてみます。

2. コンデンサーと抵抗の試聴方法

今回、追加した抵抗は  $1.1\text{K}\Omega$  と  $11.1\text{K}\Omega$  です。

まずは、電解コンデンサーに  $10000\mu\text{F}$  を使用し、 $1.1\text{K}\Omega$  と  $11.1\text{K}\Omega$  の抵抗をパラレルに接続してみます。

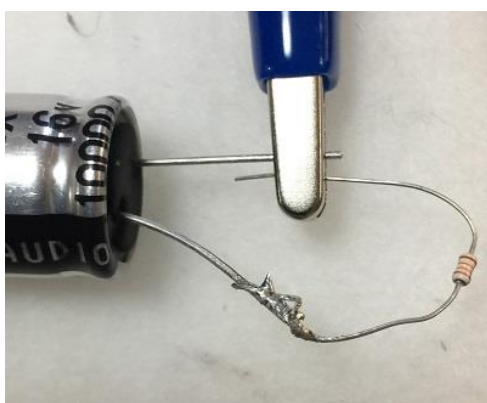


1.1KΩパラレル



11.1 KΩパラレル

そして次に電解コンデンサー $10000\mu\text{F}$  と  $11.1\text{K}\Omega$  の抵抗をシリーズに接続してみます。



11.1 KΩシリーズ

これらを前報(5)のツールにセットして、EMT981 のアースポイントに接続します。  
試聴は、EMT981 における CD 再生とし、前報(5)で使用した CD を使用します。

3. コンデンサーと抵抗の試聴結果

前報(5)で報告しましたように電解コンデンサー $10000\mu\text{F}$  単独でも、かなりのグレードに達しており、これに抵抗を加えたり、外したりして音質の変化を確認していきます。

電解コンデンサーに  $10000\ \mu\text{F}$  に  $1.1\text{K}\Omega$  の抵抗を平行に接続する場合、ベートーヴェンのチェロソナタ、モーツァルトのピアノと管楽器のための五重奏曲、イザイの無伴奏ヴァイオリンソナタのいずれも  $1.1\text{K}\Omega$  の抵抗を加えたときの変化は感じられませんでした。

電解コンデンサーに  $10000\ \mu\text{F}$  に  $11.1\ \text{K}\Omega$  の抵抗を平行に接続する場合、 $1.1\text{K}\Omega$  の抵抗と同様、ベートーヴェンのチェロソナタ、モーツァルトのピアノと管楽器のための五重奏曲、イザイの無伴奏ヴァイオリンソナタのいずれも  $1.1\text{K}\Omega$  の抵抗を加えたときの変化は感じられませんでした。

電解コンデンサー  $10000\ \mu\text{F}$  に  $11.1\ \text{K}\Omega$  の抵抗をシリーズに接続する場合、ベートーヴェンのチェロソナタは、チェロもピアノも若干音に締まりが出てきます。

モーツァルトのピアノと管楽器のための五重奏曲は、若干フォルテピアノの音に締まりが出て、木管の合奏の濁りも若干後退します。

イザイの無伴奏ヴァイオリンソナタは、ヴァイオリンの音色が若干くっきりとしてきます。

このように電解コンデンサー  $10000\ \mu\text{F}$  に  $11.1\ \text{K}\Omega$  の抵抗をシリーズに接続する場合、若干の効果を認めましたが、抵抗より電解コンデンサーの効果が支配的であり、以後も電解コンデンサーのみの効果を調べていきます。

#### 4. まとめ

電解コンデンサー  $10000\ \mu\text{F}$  に平行に抵抗を加える効果を認めませんでした。シリーズに抵抗を加える場合は若干の効果を認めました。

以上